答　辞

紫に映ゆる山脈」と校歌にも謳われる、四方の山々に春の息吹が感じられ、今を盛りに咲く梅の花が、優しく香る今日の佳き日。私たち、山梨県立甲府昭和高等学校第三十五期生二三二名のために、厳かで、晴れやかな卒業証書授与式を挙行していただき、ありがとうございます。卒業生を代表して心より御礼申し上げます。

先ほどは、校長先生、ＰＴＡ会長様、在校生のみなさんから、温かい励ましのおことばをいただきました。校長先生からいただいた式辞に託されたお気持ちは、私たちに関わってくださった、甲府昭和高校すべての先生方が、私たち卒業生に贈ってくださったはなむけのことばだと受け止め、深く胸に刻んで、この学び舎を後にしてまいります。

三年前の春、私たちは、憧れだった制服に身を包み、期待と不安を抱きながら、この甲府昭和高校の門をくぐりました。中学校とは全く違う環境に戸惑うこともありましたが、先輩方や先生方が、やさしく手を差し伸べてくださったおかげで、充実した三年間を送ることができました。良き友を得、その仲間たちと智を磨き、心を鍛えあった毎日は、かけがえのない日々であり、たくさんの思い出ができました。その中でも特に、卒業生全員の心の中に強く残るのは、沖縄への研修旅行と、紫映祭ではないでしょうか。

沖縄への研修旅行。出かける直前に、見学予定だった首里城が消失するというアクシデントに見舞われましたが、山梨とは全く違う自然と文化の中で過ごした仲間との時間は、生涯忘れることのない思い出です。戦争中に避難所となったガマや平和祈念資料館では、実際に戦争を体験し、過酷な状況を生き延びた方から、お話しを聞くことができました。私たちにとって、「戦争」とは、どうしてもイメージだけにとどまり、想像の域から超えることのないものでした。しかし、実際に悲劇が起こったその場所に立ち、当時の人々の恐怖や不安を生の声（ことば）で聞くことで、「戦争」が急に現実味を帯びたものに変わりました。「二度と戦争を繰り返してはならない」という平和への思いを肌で感じ、日ごろ私たちが穏やかに暮らすことができるありがたみに、改めて気付くことのできる旅となりました。

ちょうど一年前。先輩方を送り、いよいよ私たちが三年生となって、学校を盛り上げていかなくては！という矢先に、突如、学校が休校になるという事態に陥りました。新型コロナウイルスは、私たちから様々なものを奪っていきました。三年生が主役となるはずの、部活動の大会やコンクールはすべて中止となり、何もかもがないまま受験に突入するのか、と思っていましたが、紫映祭だけは、何とか開催することができました。多くの制限があり、例年通りの内容を行うことは叶いませんでしたが、在校生のみなさん、そして先生方の協力のおかげで、無事に二日間を乗り越えました。感染のリスクを、いかに抑えるか」という、今までとは違う視点で仲間たちと一致団結し、厳しい制限の中でも、最大限に楽しもうと模索する経験は、変化の激しいこれからの社会を生きる上で、必ずや役に立つと思います。

お世話になりました、先生方。私たちのことを最優先に考え、三年間献身的にご指導いただき、ありがとうございました。一番近くでいつも寄り添い、支えてくださった担任の先生、学年の先生方には、感謝しかありません。特に、学年主任の上杉先生は、学年集会や中央黒板を通して、時には厳しく、時には優しく、私たちを鼓舞してくれました。先生の、四の五の言わずに、やれ！」ということばは、三年間学校生活を送る私たちの、原動力になっていました。このことばを胸に刻み、これからも、何事にも謙虚に励んでいきたいと思います。

卒業という節目を迎え、進学する者、一足早く社会に出る者様々ですが、三年間の高校生活を、最も近くで支えてくれた両親には、感謝し尽くせません。影となり、日向となって、いつも温かく見守ってくれた両親に、この場をお借りして、二三二名を代表し、心からお礼申し上げます。三年間、本当にありがとうございました。

三年間を共に過ごした仲間たちへ。高校の三年間を共にできたのが、みんなで本当によかったと思います。私たちがここまで成長できたのは、みんなと切磋琢磨しながら、時には笑い、時には泣いた、そんな日々があったからこそです。三年間、本当にありがとう。いつの日かまた会うときには、お互いに成長した姿を見せ合うことのできるように、これからも精進していきましょう。

そして、在校生のみなさん。先ほどは、心のこもった送辞をありがとう

ございました。みなさんには、部活動や委員会活動、紫映祭などの多くの場面で支えてもらいました。私たちは今日で卒業しますが、春からはみなさんが甲府昭和高校の伝統を引き継ぎ、それぞれの目標に向かってＴＲＹし続けてください。依然として先の見通せない時間が続き、不安になることが多くなると思いますが、周りには、手を差し伸べてくれるたくさんの方々がいることを、どうか忘れないでください。そして、後悔のないように、一日一日を大切に、残りの高校生活を楽しんでください。

思いは尽きませんが、別れの時間が迫ってきました。新型コロナウイルス感染症については、いまだ終息の兆しが見えず、辛い時間が続いています。それに伴い生活様式は大きく変化し、新しい暮らし方に適応していくことが求められています。また、高度情報化、グローバル化など、社会情勢も大きく変化しています。そんな社会で活躍することができるように、校訓『自主創造』の精神を忘れずに、主体的に学び、変化に対応する柔軟性を持った人材になることを約束します。

ご列席の皆様、私たちの今後の人生を、期待とともに、厳しく見守っていてください。

私たちは、この三年間で磨き上げた協働性や、判断力、表現力をもとに、これからますます精進し、人のため、社会のために力を尽くせる人として成長することを誓います。

お別れにあたりまして、校長先生をはじめ、諸先生方、ならびに在校生のみなさまのご多幸と、母校甲府昭和高校のご発展を、心よりお祈り申し上げ、答辞といたします。

令和三年　三月　一日

山梨県立甲府昭和高等学校

第三五期卒業生代表　　吉岡　裕哉